

# 「宝」探しばかりだ！

歴史と文化が息づく会津若松市には、鶴ヶ城をはじめ、飯盛山や御薬園といった名所がたくさんあり、これらは私たちの「宝」です。こうした有名なもの以外にも、地域の皆さんから愛される魅力的な場所や、地域の皆さんによって大切に守られているものがたくさんあります。これらは多くの人の夢や希望、思いがたくさん詰まった地域の「宝」です。今回の特集は、こうした身近な「宝」に目を向け、自分が住むまちの魅力を市民の皆さんに再認識してもらいたい、そして、もっともっと自分の住むまちや地域、「会津若松市」を好きになってもらいたいとの思いで企画しました。

皆さんの住んでいる地域にも、きっとすてきな「宝」がたくさんあると思います。ある人にとって思い出深い場所だったり、ある人にとって癒される場所だったり…。それもその人にとって、大切な「宝」です。

皆さんも自分にとっての本市の「宝」を探したら、ツイッターやフェイスブック、インスタグラムなどで世界中に発信してみませんか。市民一人ひとりが本市の「広報マン」として魅力を伝えていけば、「会津若松市」を好きになってくれる人が世界中にもっとももっと増えていくと思います。

## さあ、「宝」探しの始まりです。

### 宝探しを楽しもう

#### Instagramに写真を投稿しよう

市では新たにInstagramの公式アカウントを開設しました。今回の特集で紹介する「宝」や、皆さんが探した本市の「宝」の写真にハッシュタグ「#会津の宝探し」を付けて投稿してください。市の公式アカウントのフォロワーの皆さんが投稿した写真の中から選んで、市の公式アカウントや市政だよりで紹介します。みんなで、会津の「宝」を探しましょう。

#### ホームページに地図を掲載します

市のホームページには、今回の特集で紹介した場所の地図を掲載します。ぜひ、ご利用ください。



地図のQRコード

●問い合わせ…秘書広聴課 (☎39-1206)

# さあ、「宝」探しに行こう！

↑写真は、背あぶり山の関白平からの眺望です。豊臣秀吉は、小田原の北条氏を滅ぼし日本を統一しました。その後、この戦いに参加しなかったり遅れたりした大名を処分するため、宇都宮を経て湊町から背あぶり山を通り興徳寺に入りました。その途中、この地で休憩したことから関白平の名が付いたといわれています。豊臣秀吉も新たに豊臣方の領土になった会津の地をここから望んだのでしょうか

この特集で紹介する順番は、取材に行った順番です。今後も、さまざまな場所に取材に行き、こうした企画を考えていきます！



日曜日のみ営業の「カフェはら笑」ですが、10人以上の団体であれば、平日の予約も可能です

「豆 富もち」と地元の野菜にこだわった料理が味わえる「カフェはら笑」で腕を振るうのは、地元のお母さんたちです。「みんなが集まって、ワイワイしながら料理するのが楽しいし、お客様に『おいしかった』と喜んでもらえるのが本当にうれしい」と話すのは、「カフェはら笑」で調理を担当する小川佳代子さんです。「こは、夫や子どもたちが卒業した

教室がすてきな  
カフェに変身！  
「カフェはら笑」

地元のお母さんたちが、  
地元の食材にこだわって作る料理



豆富もちは、油で炒めてしょう油などで味付けした豆腐を餅に絡めたものです

学校なんです。思い出もあるし、こんな風に再利用してもらえて、本当に良かった」と笑顔を見せる小川さん。「今は、日曜日だけの営業だし、冬場は休みだから、スタッフはボランティアのようなもの。でも、リピーターがどんどん増えたり、冬場に何かできたりしたら、ここは交流の場だけでなく、働く場所にもなるんじゃないかな。そんな風になって、若い世代へ引き継げたらいいですね」と今後の意気込みを話しました。



左から 小川 佳代子さん  
三浦 啓子さん  
長谷川 とよ子さん

### はら笑楽交では、 さまざまな交流体験を実施しています

はら笑楽交では、生き物調査や田植え体験、稲刈り体験、じゃがいも収穫体験など、さまざまなイベントを開催しています。気軽に参加してみませんか。

稲刈り体験に  
参加しました



平田 龍星くん  
(湊小1年)

僕は原に住んでいます。今回はお母さんやお姉ちゃんと一緒に参加しました。お母さんと一緒に稲刈りができて、楽しかったし、うれしかったです。

「カフェはら笑」のスタッフから勧められて、子どもたち三人と参加しました。子どもたちに良い体験をさせてあげられたし、豆富もちもおいしかったです。



古川 よし美さん  
(八角町)



1



3



2



4

1 10月にもち米の稲刈り体験をしました 2 稲刈り体験の後、きねと臼を使って餅つき体験をしました 3 7月にはら笑フェスティバルを開催しました 4 昨年のじゃがいも収穫体験の様子です

あいさつは  
心のおまじない

## 地域の交流の場に 生まれ変わった廃校

宝探し①  
しょうがっこう  
はら笑楽交

18年の眠りから目覚め  
交流の場に

平成11年3月に約125年の歴史に幕を閉じた会津若松市立原小学校が、昨年7月に地元の皆さんの力で「はら笑楽交」として生まれ変わりました。名前の由来は、「笑顔で楽しく交流しましょう」。「ここを地域活性化の拠点にしたい」という地元の皆さんの熱い思いが込められています。

はら笑楽交には、湊町の郷土料理「豆富もち」が食べられる「カフェはら笑」や、湊地域の皆さんが気軽に集まれる交流スペースがあります。そして、はら笑楽交では、田植えや稲刈り、じゃがいも掘り、虫取りなどのさまざまな交流イベントが開催されていて、地元の皆さんはもちろんのこと、湊町以外に住んでいる人もたくさん参加しています。懐かしい木造校舎と原集落の皆さんが温かく迎えてくれる「はら笑楽交」へ遊びに行ってみませんか。

### スタッフの声



竹本 隆さん  
(八角町)

### 湊町活性化の 拠点にしたい

私は、湊町の住民ではないのですが、縁あって「はら笑楽交プロジェクト実行委員会」のスタッフとして、カフェやイベントなどの手伝いをしています。自然が豊かな湊町は大好きだし、何より住民の皆さんはもちろんのこと、ほかの地域の皆さんとも交流ができるので、楽しみながら活動できています。はら笑楽交のカフェやイベントなどを通して、湊町がもっと盛り上がってほしいなと思います。地域の若い世代の皆さんに興味を持ってもらえたらうれしいですね。

▼カフェはら笑の営業時間：毎週日曜日の午前11時～午後3時※冬期間(12月～3月末)は休業、4月に再開  
◎ところ・問い合わせ：はら笑楽交(湊町原字新橋188) ☎090・2849・8885



4

宝探し②  
可月亭庭園美術館

会津藩主が  
訪れた名園



**掘り起こされた地域の宝**  
可月亭庭園は、会津藩主が追鳥狩の際に立ち寄りたこともある名園で会津三大名園の一つに数えられています。また、敷地内にある蔵と客座敷は国の登録有形文化財に指定された歴史的に価値が高い建物です。これまで一般開放はされていませんでしたが、5月に可月亭庭園美術館として開館しました。蔵や客座敷は、美術館やカフェとして生まれ変わり、庭園とともに訪れた人を楽しませてくれます。さらに、「地域の資源を掘り起こし、発信したい」という地域の皆さんの思いから、さまざまなイベントが開催されています。

▼開館時間：毎週火〜日曜日 午前10時〜午後5時 ▼費用：  
◎庭園と美術館350円 ◎庭園のみ200円 ◎美術館のみ200円 ※18歳未満は半額

●ところ・問い合わせ：可月亭庭園美術館（材木町二丁目5-7） ☎27・2857



①入り口からエントランスを抜け、庭園に出ることができます②築山から見た庭と客座敷③蔵を修復した美術館。星野家所有の美術品の展示のほか、さまざまな企画展を開催

④こだわりのコーヒーは、明治時代のお膳で提供しています⑤客座敷はカフェとして利用しています

夫の夢が妻の夢に、  
そして地域の夢に



館長 星野 珉二さん  
館長の妻 星野 瑞子さん  
チーフスタッフ 馬場 由紀子さん

**「どこ**かで手を打たないと、消えて無くなってしまふ」と可月亭庭園の行く末を危惧した可月亭継承者の星野珉二さんは、「客座敷と蔵をカフェやギャラリーのように利用して、訪れた人が庭園を見ながらホッと一息つける空間にしたい。城西界限の活性化の拠点になって、たくさんの方が利用してくれるようになれば、永続的に可月亭庭園は存続できる」と考えていました。手始めに自分が子どものころに遊んでいた庭園の姿へ復元するための修復作業を少しずつ始めた珉二さん。長年の夢がかない、今年5月に可月亭庭園美術館が誕生しました。

**「昔**ながらの城西界限の町並みや雰囲気はなくなってきたように思うんです。地域のみんなでここを拠点としたまちづくりをして、城西界限の魅力を高めていけたらいいですね」と話す珉二さん。地域の皆さんが立ち上げた「城西界限まちづくり協議会」と一緒に、地域興しという大きな夢に向かって歩んでいます。

定期的に  
イベントを  
開催しています



茶会の参加者にインタビュー  
上田 明子さん (住吉町)

「イベントがあるから行ってみたい?」と友人に誘われて、茶会に参加しました。近くに住んでいるので、可月亭庭園の存在は知っていましたが、入ったことがありませんでした。とてもすてきで、また来たいですね!



①6月にフラダンスの公演が行われました。ゆったりとしたダンスが美しい庭園と調和していました  
②10月に紙の立体造形展が開催され、さまざまな形の紙のアートが庭園に配置されました  
③イベントの際は茶会を開催します

城西界限まちづくり協議会の人の声  
地域の文化発信の拠点に



鈴木 隆雄さん (川原町)

城西地域には、由緒あるお寺や史跡など歴史的価値のあるものが点在していますが、これまでは、あまり知られていませんでした。可月亭は、地域の人がかつろいだり、集まったりできるので、城西地域の文化発信の拠点になればと考えています。まずは、地元の人にも知ってもらい多くの人に利用してもらいたいと思っています。茶会などを開催しています。回を重ねるごとに参加者も増えているので、これからも続けていきたいです。また、地域の子どもたちにとっても、歴史にふれることができる文化施設になるのではないかなと思います。将来は、可月亭を中心に、城西地域に点在している史跡などを回遊するようなルートの作成などもできるようになるといいですね。



芦ノ牧温泉駅 駅長  
小林 美智子さん

「最初は、駅に来てもらった人に喜んでもらおうと、列車の待ち時間にお茶を出したり、思い出ノートを設置したり、待合室に座布団を置いたりすることから始めたんです。そのうち、私が動物好きというのもあって、駅で猫を飼い始めたんです」と話すのは駅長の小林美智子さんです。「昭和2年に建てられたレトロな駅舎を守りながら、訪れた人がほっこりするような駅にしていきたい。訪れた人から『良い駅だね』『花がいっぱいできれいだね』と言ってもらえる、うれしい」と笑顔を見せます。初代ネコ駅長に「ばす」が就任してからは、大戸町の皆さんや鉄道ファンだけでなく、全国

地域の人も鉄道ファンも猫好きも集つ「まちの駅」へ

訪れた人の心がほっこりする場所に



小林さんは二代目ネコ駅長の「らぶ」のパトロールに同行しています

から猫好きの人もこの駅を訪れるようになりました。

「地域の皆さんに支えられて、いる」と常に周囲への感謝を忘れない小林さんは、「何か恩返しをしたい」と考え、地域の人が楽しめるさまざまなイベントを開催しています。「地域の皆さんに喜んでもらえるのが、本当にうれしい」と話す小林さんは、現在、息子の洋介さんと一緒に仕事をしています。「東京から息子夫婦が帰ってきて、駅の仕事を手伝ってくれています。地域のみんなが集えるこの場所を絶やさないよう、引き続きしていきたいですね」と今後の抱負を話しました。



芦ノ牧温泉駅を一躍有名にした初代ネコ駅長の「ばす」は、約2年前に永眠しました(推定18歳)

「駅のお母さん」と

猫がいる駅

宝探し③  
芦ノ牧温泉駅



温かく迎えてくれる  
大戸町の玄関口

今では、ネコ駅長がいる駅として有名になった芦ノ牧温泉駅ですが、約30年前、数カ月間だけ無人駅になったことがあります。家もそうですが、建物は人がいなくなると朽ちてしまうものです。その後、「このままではいけない。芦ノ牧温泉の玄関口に出迎える人がいなくてはいけない」という地域の皆さんの思いと、小林駅長の努力で今の姿になっていきます。小林駅長をはじめ、ここで働く皆さんは、会津鉄道(株)の社員ではなく、大戸町と猫をこよなく愛する「芦

元気をくれる、  
大戸町の宝です



鈴木 臣子さん  
(大戸町上三寄)

私は昭和46年に大戸町に嫁いできたんです。だから、無人駅になったときのことよく覚えています。誰もいなくなった駅って、本当にさみしいものです。そのまま無人駅になっていたら、今のようになぎわいはなかったと思います。

今、この駅がこうして有名になって観光客でにぎわうようになったのは、小林駅長が頑張ってくれた証です。猫の面倒をみたり、地域のみんなが楽しめるようにと花見や盆踊りなど季節ごとにイベントを企画したりするなんて、誰でもできることじゃないと思います。それに小林駅長の温かい人柄は地域の人に元気を与えてくれるんですよ。私は、近くのラーメン屋で働いているので、小林駅長に会いに駅に行くんです。顔を見て話をすると、自然と「私も頑張るぞ」と力がわいてくるんです。小林駅長には、「地元の宝を守ってくれてありがとう」と感謝の気持ちでいっぱいです。これからも、大戸町のにぎわいをつくってほしいです。

ノ牧温泉駅を守る会」の皆さんです。「駅のお母さん」と慕われる小林駅長と、アイドル並の人気者のネコ駅長が迎えてくれる芦ノ牧温泉駅に行ってみませんか。  
◎ところ・問い合わせ：芦ノ牧温泉駅(大戸町上三寄乙49 92・3766)



観光シーズンは、特に多くの人でにぎわっています

猫が働く駅に集まる人々

芦ノ牧温泉駅には、多くの「猫好き」が集まります。ここでは、その一部の声を紹介します。



左から 加藤 恵美さん 越川 将志さん  
(千葉県)

観光がてら猫に会い来ました

「らぶ」ちゃんに会えてよかったです。かわいい!

車で道の駅巡りをしていました。ここには、ネコ駅長に会いに来ました。

東京から戻って猫担当になりました



芦ノ牧温泉駅 広報・営業  
小林 洋介さん

約3年前に、老体になった初代ネコ駅長・「ばす」の面倒をみるため、猫担当として駅で働き始めました。「ばす」がネコ駅長になっていなかったら、会津に帰ってこなかったかもしれません。この駅を地域の活性化の拠点にしていきたいです。

近所にお店を  
移転しました



(南千藤(大戸町上三寄)  
左から 加藤 園代さん  
加藤 史郎さん

会津鉄道沿線が好きで関東に行くときに、よく利用していました。店の移転を考えたときに芦ノ牧温泉駅の雰囲気も好きだったし、猫も大好きなので、移転先を芦ノ牧温泉駅の近くに決めました。大戸町は地域の皆さんも温かく接してくれるので、良いところです。



(南千藤では会津漆器や会津木綿などを販売しています)



宝探し⑤  
株はらつぱ

途絶えた技術の復活

株はらつぱは、社長の急逝で廃業した(株)原山織物工場から事業を継承しました。しかし、(株)原山織物工場の染めは、急逝した社長のみが担当していたため、その技術は途絶えてしまっていました。株はらつぱは現社長の「(株)原山織物工場の技術を残していきたい」という強い思いで、現在、途絶えていた染めの技術の完全復活に向けて取り組んでいます。さらに、子ども用のズボンやトートバッグ、エプロンなど普段使いのできるもののほか、アパレルブランドとの製品開発をするなど積極的に会津木綿の振興に取り組んでいます。

●ところ・問い合わせ：株はらつぱ  
(日吉町4-25) ☎36・7903

会津が誇る  
会津木綿



宝探し④  
山田木綿織元

次世代へつなぐための老舗の挑戦

山田木綿織元は、明治38年創業の老舗の織元です。会津木綿の独特の風合いは、およそ100年前の機械で織られているからこそのもので、伝統技法を守りながら、新しい柄や色合い、デザイン、地元企業との合作に挑戦するなど、会津木綿の魅力を引き出しています。昨年オープンしたギャラリには、会津木綿を使った洋服から小物まで、さまざまな商品がそろっています。工場見学もできるので、気軽に立ち寄ってみませんか。

●ところ・問い合わせ：山田木綿織元(七日町11-5) ☎22・1632

ものづくりを  
心から楽しむ

「嫁」

木綿が大好き」と話す山田木綿織元の山田厚子さんは、大学生のころに和裁や洋裁、染色、色彩などの勉強をしました。その専門知識を生かして、会津木綿を使った洋服や小物のデザインや、色合わせなどを行っています。「会津木綿の風合いを生かしながら、使う人のことを考えて作るのが楽しい。オーダーメイドで洋服を作ることもできますよ」と話す山田さんは、昨年、自分が手掛けた製品を販売するギャラリをオープンしました。「亡くなった義母が製造だけでなく、販売できる場所をほしがっていた。私も同じ夢を持っていて、昨年その夢がかなったんです。東京から娘が戻り、夫婦で後を継いでくれたし、今が本当に幸せ」と目を細めました。



山田木綿織元三代目夫人  
山田 厚子さん



株はらつぱ代表取締役社長  
小野 太成さん

継承と復活にかける思い

「不」

安はあったけれど、会津木綿を守りたい」という思いで、(株)原山織物工場から事業を引き継いだ小野太成さんは、「(株)原山織物工場は私の父の実家なんです。小さいときから会津木綿は身近にあったし、たくさんの人から(株)原山織物工場の技術をなくしてほしくないと言われたんです。周りの後押しもあって、自分がやってみようと思ったんです」と話します。昨年、大学で織りや染めを学んだ若い人材を採用し、染めの技術の復活に向けて取り組んでいる株はらつぱ。試行錯誤しながら、染めから織りまで一貫してできる(株)原山織物工場の技術の復活までもう少しです。「いずれは、原料の綿花も会津産のものを使って、完全なメイドイン会津を目指したいんです」と小野さんは今後の抱負を話しました。

普段から会津木綿を  
愛用しています



美工堂(西栄町)  
新井 美保さん

美工堂では、株はらつぱの会津木綿を使った商品を数多く取りそろえています。丈夫で着心地が良く、お手入れも楽で、なんと言ってもおしゃれ！スタッフも普段から愛用しているんですよ。皆さんも一着どうですか。

若手の染め職人に  
インタビュー



株はらつぱ  
安濃 諒さん

会津伝統の  
技術を継承

私は北海道出身です。縁あって、会津木綿の「染め」の技術を習得しました。とても、やりがいを感じています。今は化学染料で染めていますが、いずれは自然の染料を使った藍染めにも挑戦したいです。



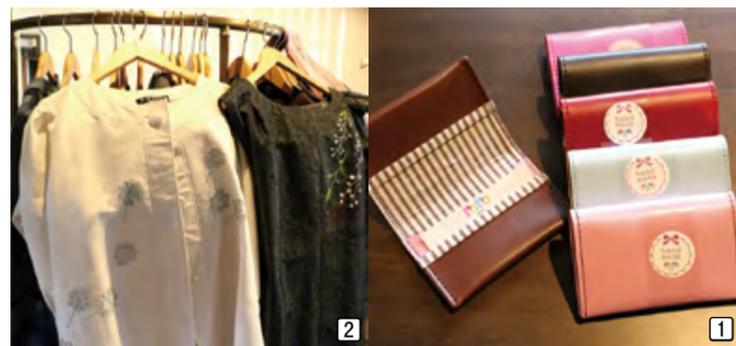
納得の色ができるまで、配合を調整します

会津木綿の制服で  
おもてなししています



田季野(栄町)  
田村 道子さん

田季野の制服は、山田木綿織元の会津木綿です。通気性が良く、動きやすく、重宝しています。デザインがすてきな、若い人も年配の人も似合うのが会津木綿の魅力です。



①本市に工場がある株羅羅屋と合作した名刺入れです②ジャケットとドレスは、銀糸を織り込んだ会津木綿で作っているので、光沢があります

## 宝探し⑧ 本滝沢獅子保存会



勇壮な獅子舞を踊るのは、あどけなさが残る中学生です

**地域の子どもたちが継承する伝統芸能**  
かつて後継者の不足などで、一時期途絶えていた本滝沢の獅子舞は、昭和54年ごろに当時の区長の尽力で、小・中学生が踊りを、大人がおはやしをする形式で復活しました。踊り手の子どもたちは、大人になると次の世代に踊りを教えつつ、おはやしを担当しています。工夫しながら地域の中で伝統芸能を継承している本滝沢獅子保存会。春彼岸に町内の家々を回って春の訪れを告げたり、地域の文化祭で披露したりと地域に根ざした活動をしています。

### 保存会の人にインタビュー



本滝沢獅子保存会  
会長 雪下明広さん

#### 復活した宝を守る

私が小学4年生のときに獅子舞が復活したんです。だからこそ、途絶えさせたくないという強い思いで活動しています。今の子どもたちは塾や部活で忙しくて後継者の確保が難しい。一人でも多く入会してくれたらうれしいです。

### 保存会の皆さんにインタビュー



天寧獅子保存会  
左から 副会長 小林 雅芳さん  
会長 若林 謙一さん  
副会長 木村 善行さん

#### 伝統芸能が地域の架け橋に

どこの地区でも同じだと思いますが、天寧地区も青年会などがなくなり、地域の人たちのつながりが昔と比べると希薄になっています。だからこそ、地域の中で継承してきた獅子舞は後生に残していきたいと思えます。獅子舞が地域のみなをつなぐ架け橋になり、世代間交流ができる場になっていけばいいですね。

### 天寧地区の人の声



お秀茶屋  
(東山町石山天寧)  
佐藤 竜太郎さん

小さいころから見ていたので、毎年楽しみにしています。天寧の獅子舞を見ると、「今年が始まった」と実感するんですよ。

### 若手の後継者の声



天寧獅子保存会  
若林 大樹さん

担当は雌獅子です。歴史に「天寧獅子」の名を残せるよう、継承していきます。



①今年3月に戊辰150周年を記念して、御薬園で舞を披露しました②太夫獅子と小僧が踊る「弊舞」の一幕です

### 弊舞を一緒に踊った祖父と孫の声



小松獅子保存会  
高野 悦男さん 心暖くん(5歳)

おじいちゃんと一緒に踊れて楽しかったよ。家でもおじいちゃんが教えてくれたし、練習は大変じゃなかった。大きく踊りたいな。

太夫獅子を専門に踊っています。今、70歳なんですけど、この年齢まで踊れて、何より、自分の孫と一緒に「弊舞」を踊れて幸せです。息子も獅子団に入っているんです。親子三代で入団しているんですよ。

### 川南小卒の初的女性団員の声



小松獅子保存会  
星野 春華さん

獅子団では、太鼓を担当しています。小学校のときにクラブ活動で獅子舞を習って、ずっとかっこいいなと憧れていました。これまで女性が獅子団に入った例がなかったの、自分が芸を披露することはないんだらうなと思っていました。それでも、みんなのお手伝いができたらいいなと、ずっと考えていました。女性でも獅子団で活動できるようになって、うれしいです。

### 校長先生にインタビュー



川南小学校 校長  
横山 譲治先生

#### 地域の宝を大切にする心を

子どもたちが地域の伝統芸能を学ぶことで、誇るべきものがあることを実感するとともに、他の地域や国へ行っても、そこで大切にされている宝を尊重しようとする心が育まれると考えます。また、学んだ伝統芸能を披露し喜んでもらう経験は、地域の中で役立っていることを実感し、地域の人々と子どもたちとの双方向の関係を築くと期待しています。

### 宝探し⑥

## 天寧獅子保存会



毎年、春分の日には鶴ヶ城で舞を披露しています。左が太夫獅子、真ん中が雌獅子、右が雄獅子です。今年は獅子頭を修繕しました

### 地域に春の訪れを告げる

天寧の獅子舞は、昔は天寧地区に住む長男のみが継承するしきたりでした。しかし、時の流れとともに、長男のみでの継承は難しくなり、現在は天寧地区以外の人でも獅子舞が好きな人であれば入会することができます。18人の会員

で活動している天寧獅子保存会。公演当日に誰かが欠けても披露できるように、そして後世に踊れる曲を残していくために、会員の皆さんは、一人で複数の役割をこなせるよう練習を積んでいます。毎年、春彼岸には天寧地区をはじめ市内各地、約200カ所を回って春の訪れを告げています。

# 地域で受け継がれる獅子舞

時代の変化に対応しながら、  
地域のみんなで後継者を育成

小松獅子保存会は、地域で伝統芸能を継承していくため、小松地区と東小松地区の全ての家庭が会員になっていて、その中から獅子団を形成しています。また、後継者の育成のため、18年前から川南小学校で地域の子どもたちに獅子舞を教えています。その努力が実を結び、今年初めて、川南小学校で教わった1期生の女性が獅子団に加わりました。これまでは、代々男性が芸を継承し、獅子団として活動してきたので、女性が獅子団に入ることも初めてのことで、地域の中で大切に守られ、育まれてきた伝統芸能に新たな風が吹き込まれました。

### 宝探し⑦

## 小松獅子保存会

# まちなかの宝探し【大町編】

会津大学短期大学の学生の皆さんにまちなかを歩いてもらい、面白いものやすてきなと思うものを探してもらいました。その様子を紹介します。

## 大町周辺の宝探しに行くぞ～



理菜ちゃん 優姫ちゃん 香澄ちゃん 秀島くん

会津若松駅のシンボル、あかべこの前から歩き始めました

スタート!

会津若松駅

4



簡単にかわいい小物が作れるから、また来たいなあ。

楽しい♪子どもたちの来たかったな。

木のものづくり体験や、本格的なキッチンでままたちができるカフェで童心に返って楽しめました (Lotus Wood Villageで)

2



西洋風の建物に興味津々な様子 (会津迎賓館で)

ステキな建物ね!

次はあっちに行ってみましょう。



1



夏にここでイベントやったよね～!

懐かしい! 昔からあるよね。

夏に短大生がアイデアを出して開催した「水カフェ」の会場になった駅前の公園です

3



お客さんからもらったんだよ!

ずっと前から気になってたんです。

キカイダーが気になった香澄ちゃんは、お店の人の話に聞き入っていました (パーラーキャンドルで)

5



この色、きれい。おしゃれ～!

女子三人は、蔵を利用したギャラリーで、おしゃれな漆器や漆を使ったアクセサリーなどを見て楽しみました (坂本これくしょんで)

6



どれもおいしそうで、迷っちゃうね。

食べちゃっていいですか?

まだ、お昼にならないよ～。

あいつ食の陣にも参加することが多いベীগール専門店に休憩しました。秀島くんは、昼食まで待ちきれずに、早速食べていました (會ベীগールで)

8



ゆっくりご覧くださいね～。

江戸末期の店蔵で、美しい会津漆器に出会いました。このお店には、戊辰戦争で西軍によって切りつけられた大黒柱があります (鈴木屋利兵衛で)

9



まちの情報を発信します

塩蔵2924は、情報交流スペース「ふくふく」とカフェ「甘味処しお蔵」になっています。「ふくふく」では、地域のさまざまな情報を発信していきますので、ぜひご利用ください。皆さんに、気軽に立ち寄りてもらいたいですね。

俵まちづくり会津 稲村 久美さん



地域の宝になってほしい

福西本店の建物は、私が生まれ育った場所です。昔から自分たちだけで使っているのを「もったいない」と感じていました。福西家で守ってきた宝が、これからはまちの皆さんに愛される場所になってもらえれば幸いですね。

福西家13代目 福西 伊佐男さん

10

探検しているみたい。こんな道あったんだ～。



路地には地域の皆さんが取り付けた板塀が貼られていました

11

来年は、就職活動…。うまくいきますように!



路地を抜けると神明神社にたどり着きます。みんなでお参りました

ゴール!



おさすり地蔵や蒲生氏郷公のお墓にお参りました。たくさん歩いて、少し疲れ気味の皆さんでした (興徳寺で)

### 【まちなかの宝探し番外編】



江戸時代にタイムスリップした気分になります

竹細工 竹藤 (中央二丁目2-17) 1624 (寛永元) 年創業の竹藤の店舗は江戸末期の建物で約180年前のもので、竹細工や唐人風のお店です。

【まちなかの宝探し番外編】



美しい白漆喰の壁が印象的です

会州一蔵(相生町7-17)  
江戸時代の赤瓦と白漆喰の酒蔵は、現在喫茶と雑貨販売の店舗ギャラリーなどとして利用されています。市の歴史的景観指定建造物です。



本町通りから路地を入ると、真っ赤な鳥居が目に入ります

小館稲荷神社(本町8-22)  
毎年、小館稲荷神社のお日市では、地域の子どもたちがみこしを担いで商店街を練り歩くなど、地域の皆さんから愛され続ける神社です。



田中稲荷神社に到着しました。毎年7月10日に開かれるお日市「ほおずき市」の様として、地域に愛されています

湊町の伝統料理ですよ。  
おいしそうですね。  
湊町の伝統料理ですよ。

10  
湊町伝統の「豆富もち」が食べられるカフェを発見しました。歩いて小腹がすいた秀島くんは、おいしいお餅に大満足でした。このお店は、あいつ食の陣・秋の参加店です(なぬか町茶房「結」もちカフェで)

大和町通りでは、かつての柳並木のまちなみを復活させるために、まちなみなどで通りに柳を植樹しました

7  
おしゃれな米屋を発見し、新米を試食しました。「会津米はうまいね〜」と三人(COCOKARAで)

8  
日本酒、お父さんに飲ませてあげたいな〜。  
この冬から、「蔵人」として酒造りに参加する若い女性に会いました(鶴乃江酒造株で)

6  
初めて間近でフクロウ見ましたよ〜。  
白フクロウに一目惚れした秀島くんは、フクロウの手乗りに初挑戦しました(鷹匠カフェで)

5  
きれいにできたから、誰にあげようかな。  
会津伝統の絵ろうそくの絵付け体験ができます(ほしはるん絵ろうそく店で)

3  
私は、ティッシュケースが気に入りました。どれも、おしゃれな色です。  
会津木綿を貼り付けた紙製品がたくさんあるお店を発見しました。琉花ちゃんは、「これがかわいい! これもすてき!」と興味津々の様子でした(南桐屋紙器工業所で)

4  
ステキだよ。似合う。  
どう? 似合うかな。  
会津木綿のかわいらしい小物やすてきな洋服に夢中です(もめん緑で)

1  
フィリピンのパンなどを味わえるカフェです。店内で勉強することもできます(basket.で)

2  
新選組隊士の斎藤一のお墓にお参りました(阿弥陀寺で)

七日町周辺の宝探しに行くぞ〜



これ、かわいい。  
どれもほしくなっちゃうね。  
会津17市町村のアンテナショップ(駅カフェ)が入っている七日町駅から歩き始めました

あなたの「宝」探しの始まりです  
この特集で紹介した「宝」はほんの一部です。市内には、もっとと隠れた「宝」がたくさんあります。学生時代の甘酸っぱい思い出の場所だったり、子どもが散歩中にふと気付いたものだったり、通勤・通学途中で発見した美しい風景だったり...。自分だけが知っている本市の魅力は皆さんの日常の中にもたくさんあるはず。こうした自分だけの「宝」って、何だか誰かに教えてあげたくありませんか。  
さあ、カメラを片手に  
「宝」探しに行きましょう!

宝探しはまだまだ続く...

まちなかの宝探し【七日町編】